

第 147 回日耳鼻長崎県地方部会

学術講演会 プログラム抄録集



日時：平成 27 年 4 月 5 日（日）午前 9 時 55 分～

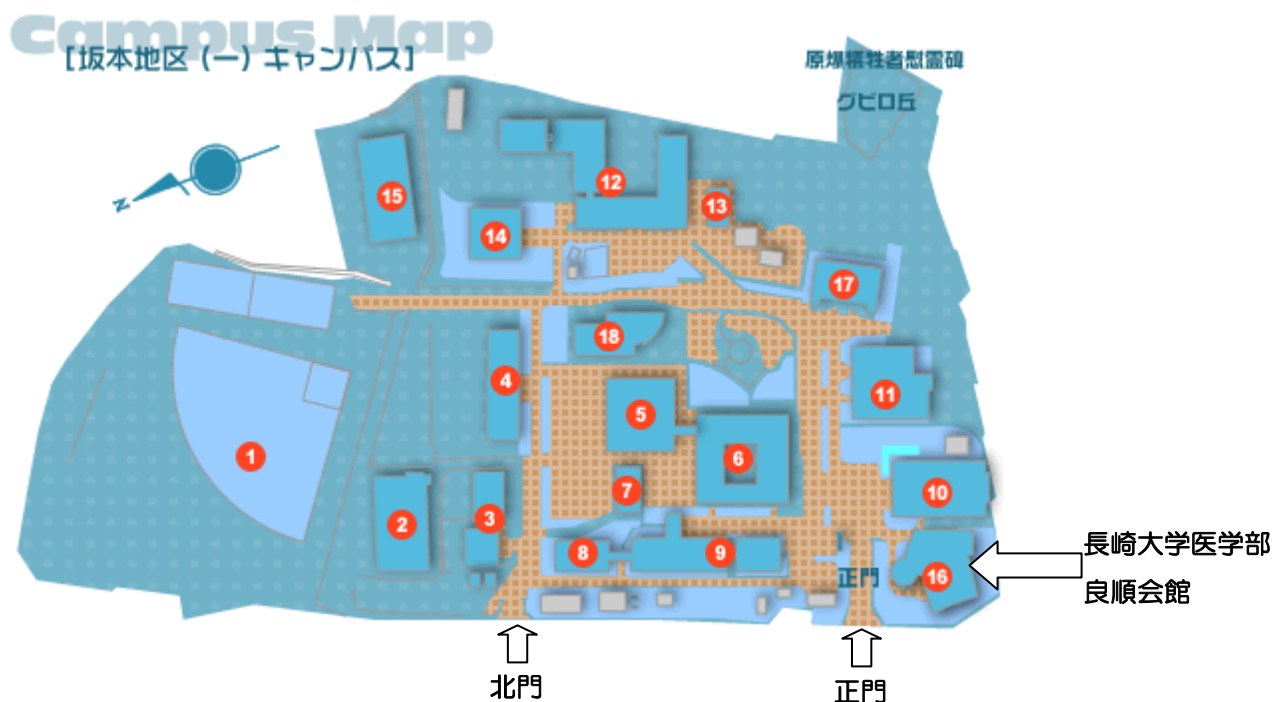
場所：長崎大学医学部 良順会館

〈ご案内〉

- ◆ 会場は、長崎大学医学部良順会館です。
緊急時の連絡：耳鼻科医局(095-819-7349)耳鼻科病棟(095-819-7391)
- ◆ 駐車場は医学部駐車場を利用できますが、長崎市内の先生方はできるだけご遠慮ください。
- ◆ 専門医の方は学術集会参加報告書(平成 27 年度用)をご提出下さい。

〈演者の方へ〉

- ◆ 一般演題の口演時間は 7 分以内、討論は 3 分以内です。時間厳守をお願いします。スクリーンは 1 面でプレゼンテーションには Microsoft Office Power Point 2013 を使用します。Mac 使用の方は Windows ファイルに変換して、文字ずれ・文字化けなど無いことを確認してから CD-R またはフラッシュメモリーでご持参下さい。スライド枚数に制限はありませんが、発表時間を厳守してください。



★会長挨拶 (9:55~10:00)

高橋晴雄(長崎大)

★一般演題

第Ⅰ群 : (10:00~10:40)

座長 高野 篤 (長崎大)

1. 未成年に発症した甲状腺節状・モルラ型乳頭癌の1例

○奥 竜太・田中藤信・加瀬敬一・坂口功一(長崎医療)

伊東正博(同 病理診断科)

2. 扁桃炎を契機に発症した Lemierre 症候群の1例

○池永まり・北岡杏子・木原千春・畑地憲輔・原 稔・吉田晴郎・高橋晴雄

(長崎大)

3. 急性副鼻腔炎を合併した副鼻腔 ossifying fibroma の1例

○中尾信裕・山口仁平・渡邊 毅・高野 篤・高橋晴雄 (長崎大)

4. 当科における後鼻神経切断術についての検討

○渡邊 毅・木原千春・高野 篤・高橋晴雄 (長崎大)

第Ⅱ群 : (10:40~11:10)

座長 吉田晴郎 (長崎大)

5. めまい患者における側頭骨 CT の所見

○大野純希・松本浩平・占部有人・隈上秀高 (長崎原爆)

6. めまい診療における頸部血管超音波検査の有用性

○松本浩平・大野純希・占部有人・隈上秀高 (長崎原爆)

7. 頭痛・嘔声を主訴に発見された非外傷性頭蓋外椎骨動脈解離の1例

○花牟禮聡美・吉見龍二・藤山大祐・安達朝幸 (佐世保総合)

★特別講演 (11:10～12:00)

座長 高橋晴雄 (長崎大)

「Cochlear Reimplantation and Revision Surgery」

Levent Olgun, MD

Director Izmir Bozyaka Teaching and Research Hospital ENT
Clinic, Turkey

★平成 26 年度日耳鼻長崎県地方部会総会 (12:00～12:10)

司会: 高野 篤 (長崎大)

1. 会計報告
2. 連絡事項、その他

★平成 26 年度日耳鼻全国会議代表者会議報告 (12:10～12:50)

- | | |
|---------------|------------|
| 1. 保険医療委員 | 吉見龍一郎・隈上秀高 |
| 2. 乳幼児医療委員会 | 神田幸彦 |
| 3. 福祉医療委員会 | 小島未知郎 |
| 4. 学校保健委員会 | 山野辺滋晴 |
| 5. 医事問題委員会 | 本川浩一 |
| 6. 産業・環境保険委員会 | 金子賢一 |

★閉会

1. 未成年に発症した甲状腺篩状・モルラ型乳頭癌の1例

○奥 竜太・田中藤信・加瀬敬一・坂口功一(長崎医療)
伊東正博(同 病理診断科)

未成年に発生した甲状腺篩状・モルラ型乳頭癌の1例を経験したので報告する。症例は18歳女性。学校の内科検診で前頸部腫瘤を指摘された。篩状・モルラ型乳頭癌は比較的稀な乳頭癌の亜型であり、APC 遺伝子変異によって家族性大腸ポリポーシスを合併する例と、合併しない散発例が報告されている。今回の症例は、後日施行した大腸内視鏡で異常が見られず、散発性発生例と考えた。

【参考文献】

桑鶴知一郎、他：家族性大腸ポリポーシスに合併した篩（・モルラ）型甲状腺乳頭癌の1例. 診断病理 2008：25；206-209

2. 扁桃炎を契機に発症した Lemierre 症候群の 1 例

○池永まり・北岡杏子・木原千春・畑地憲輔・原 稔・吉田晴郎・高橋晴雄
(長崎大)

症例は生来健康な 21 歳男性、某総合病院で扁桃炎として加療されたが改善なく来院。頸部に血栓性静脈炎を疑う所見があり、CT で肺に **septic emboli** を合併していたため、直ちに抗凝固療法を開始し徐々に改善した。同症候群は、上気道感染に続く血栓性静脈炎、**septic emboli** により重篤となり、診断の遅れによる合併症や 4-22%の致死率の報告がある。鑑別疾患として念頭におくことが重要と考えられた。

3. 急性副鼻腔炎を合併した副鼻腔 ossifying fibroma の1例

○中尾信裕・山口仁平・渡邊 毅・高野 篤・高橋晴雄（長崎大）

骨形成性線維腫 (ossifying fibroma) は線維性骨異形症と類似した線維性結合組織の増殖と骨梁の新生を特徴とする非腫瘍性の骨疾患である。今回我々は骨形成性線維腫の進展に伴い急性副鼻腔炎を合併し、緊急で内視鏡下に腫瘍減量手術を行うことで急性副鼻腔炎を改善し得た1例を経験したので報告する。

【参考文献】

鈴木清護、他：良性線維性骨病変 (benign fibro-osseous lesions) の取り扱い.

MB ENT 2008 : 90 ; 47-54

阿部 郁、他：副鼻腔線維性骨異形症に伴う鼻閉に対する減量手術の経験. 日鼻誌 2012 : 51 ; 489-494

4. 当科における後鼻神経切断術についての検討

○渡邊 毅・木原千春・高野 篤・高橋晴雄（長崎大）

アレルギー性鼻炎の治療法としては内服やステロイド点鼻による薬物療法、最近では舌下免疫療法などがあげられるが、重症例のアレルギー性鼻炎や高度の血管運動性鼻炎に関しては薬物療法のみでは十分な効果が得られないことが多い。この場合に外科的治療を考慮する。この外科的治療には下甲介粘膜の変性、下甲介体積の減量、後鼻神経の機能抑制があげられ、鼻汁減少目的には後鼻神経切断術の有用性は高いといわれる。

当科で施行した後鼻神経切断術について検討したので報告する。

【参考文献】

横井秀格、他：後鼻神経切断術が有効であったアレルギー性鼻炎例. アレルギーの臨床 27(14)：2007；1114-1118

浦長瀬昌宏、他：粘膜下下鼻甲介骨切除と併用した後鼻神経切断術のアレルギー性鼻炎への有用性に対する検討. 日鼻誌 2013；52；494-498

5. めまい患者における側頭骨 CT の所見

○大野純希・松本浩平・占部有人・隈上秀高（長崎原爆）

近年、CT(computed tomography)の進歩により、解像度の優れた側頭骨の詳細な観察が可能となってきた。当科では平成 25 年 1 月から現在までめまい患者 165 例に対し、側頭骨 CT を実施した。上半規管裂隙症候群(SCD)7 例、半規管低形成 1 例、外リンパ瘻 1 例などの診断が可能であったが、特に既知のめまい疾患と完全に合致しない経過や所見を有する患者の中に SCD がみられ、めまい診療においても側頭骨 CT 検査による前庭器の評価は不可欠と思われた。

【参考文献】

Minor LB., et al : Sound-and/or pressure-induced vertigo due to bone dehiscence of the superior semicircular canal. Arch Otolaryngol Head Neck Surg 1998 : 124 ; 249-258

6. めまい診療における頸部血管超音波検査の有用性

○松本浩平・大野純希・占部有人・隈上秀高（長崎原爆）

近年、超音波診断機器の進歩により解像度の優れた様々な観察が可能となり、脳血管障害では、頸部血管超音波検査(CUG)による脳循環の評価や塞栓源検索は必須である。当科では、平成25年1月から現在までめまい患者57例に対し、これまでやや困難であった椎骨動脈の観察を含めたCUGを実施した。鎖骨下動脈盗血症候群や後下小脳動脈の狭窄などの所見が得られ、CUGによる椎骨動脈の評価はめまい診療に有用と思われる。

【参考文献】

木村和美：脳卒中診療における脳神経超音波検査．脳循環代謝 2007：19；38-43

斎藤こずえ、他：超音波検査 一椎骨脳底動脈系の超音波検査について一．Equilibrium Res 2009：68；184-192

7. 頭痛・嘔声を主訴に発見された非外傷性頭蓋外椎骨動脈解離の1例

○花牟禮聡美・吉見龍二・藤山大祐・安達朝幸（佐世保総合）

脳動脈解離の好発部位は、椎骨動脈が70%以上と最多だが、頭蓋外での発症は比較的稀である。また、近年の画像診断の発展・普及に伴い、頭痛やめまいなど軽微な症状のみで発症した椎骨動脈解離が発見される機会が多くなっているが、咽頭痛や嘔声のみで発症する例は殆ど報告がない。今回我々は、突然の咽頭痛・嘔声を主訴に発見された、非外傷性頭蓋外椎骨動脈解離の症例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

【参考文献】

山本智彦、他：めまい・頭痛のみを主訴に来院し椎骨脳底動脈解離による脳梗塞と診断した1例. 脳卒中 2011 : 33 ; 114-118
越後 整、他：後頭部痛・頸部痛のみで発症した椎骨動脈解離の臨床像. No Shinkei Geka 2013 : 41 ; 305-310

【特別講演】

Cochlear Reimplantation and Revision Surgery

Levent Olgun MD

Director Izmir Bozyaka Teaching and Research Hospital ENT Clinic,
Turkey

Although cochlear implantation is a relatively safe surgical procedure some surgical problems can lead complications even in best hands. Device manufacturing problems or problems related with life-time of implant may cause a non functioning device. In majority of these cases a revision surgery or reimplantation can solve the problem. However revision surgery and reimplantation may have specific difficulties. In this speech 96 cases in which a revision surgery or reimplantation required among 1924 cases will retrospectively analysed and rules, hints and important points in revision surgery and reimplantation would be presented with short video-clips